

# 「迷ったときは原点に回帰する」を合い言葉に

～サンクゼール久世良三さん・まゆみさんの証を通して～

「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」(ヨハネ15:5)

東京生まれの久世さんは、スキーが大好きで雪のあるところに住むことが夢でした。しかし家業を継いで問屋の仕事をしていました。家業は色々なところに食品を卸す会社でした。長野のスキー場のペンションやホテルにも卸していました。次第に夢が膨らんで、1年間計画を立ててお父さんの許しも得て、とうとう久世さんは長野の斑尾高原でペンションを始めることになりました。この始めたペンションにお客で来たまゆみさんと将来結婚します。ペンションでは久世さんのお母さんや妹や従兄弟たち、奥さまの兄弟たち家族みんなが働いていました。

久世さん夫妻には、男の子が2人生まれました。そして、ペンションには冬になるとお客さんがたくさん来てくれました。そしてある日奥さんは長男を連れて横浜に実家に帰ってしまいました。久世さんは、もう一度奥さんと結婚生活を送るためにペンションをやめる約束をして、教材販売やスキー板のレンタルなど色々な仕事をしていました。その頃、奥さんは近くの農園からリンゴを安く買ってジャムを作ってペンションの朝食に出していました。それを見た久世さんは奥さんのジャムを近くの工場で作ってもらうことにしました。そして久世さんは6年間経営していたペンションをやめて、「斑尾高原農場」というジャム屋になりたくさんのジャムを売りました。当時自分のジャム工場もっていないだったので、将来自分の工場をもちたいと考えるようになりました。また、結婚当初はペンション経営で忙しく新婚旅行にも行けてなかったので、旅行に行くことにしました。リンゴを作っているフランス北部のノルマンディー地方の村へ行きました。ノルマンディーの自然の美しさ・豊かさ・人々のゆとりのある暮らしに感動し、いつかこのノルマンディー地方でみたリンゴ蒸留場のように、リンゴ畑の中にジャム工場を造り、その他にもぶどう畑やワイナリーも作ってみたいと思うようになりました。

「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つけられます。たたきなさい。そうすれば開かれます」(マタイ7:7)

帰国後、ペンションを運営していた近くの村でジャム工場建設のお願いをしてまわりましたがみんなに断られ、三水村…現在の飯綱町の村長さんだけは賛成してくれました。そしてとうとう久世さんは夢だったジャム工場・ワイン工場・ぶどう畑・店・レストラン「サンクゼール」を建てること出来たのです。

久世さんはこれらの建設費用を銀行から借りていました。ある日、売上げが借金よりも少なくて、お金を銀行に返せなくなりました。久世さんはすごく困って「朝が来なければいいな」と毎日思い、死んでしまいたいと考えるようになりました。銀行の人たちから犯罪者のように扱われ、心がとても傷ついた久世さんはとうとう声が出なくなってしまうしました。久世さんは「自分はダメな人間だ」と思いました。

「神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません」(詩篇51:17)

そんな時、クリスチャンになって間もない奥さんが、毎日ベッドで聖書の言葉を久世さんに読んであげていました。久世さんはこの言葉を聞くとホッとして眠ることが出来ました。「あなたのみことばは、私の上あごに、なんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に甘いのです」(詩篇119:103)とある通りです。ある日、久世さんは奥さんが行っている教会へ行きました。教会ではみんなで神さまに感謝を捧げ、賛美歌を歌い、牧師先生が聖書の話をしてくれます。また、お年寄りの方や耳が不自由な方が久世さんにすごく優しくしてくれました。久世さんは教会へ行くと、まるでお母さんのお腹の中にいるみたいですごくホッとしました。久世さんは神さまからすごく愛されていることを知り、洗礼を受けクリスチャンになりました。「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れはなりません(ヨハネ14:27)」

「私の助けは、天地を造られた主から来る(詩篇121:2)」  
「主は、あなたを、行くにも帰るにも、今よりとこしえまでも守られる(121:8)」  
久世さんは、クリスチャンになってからも銀行にお金を返すために一生懸命働きました。それから何回か会社が倒産しそうになりましたが、いつも不思議な助けがありました。そして会社を潰さずに頑張ることが出来ました。久世さんが仕事に疲れた時、会社が苦しい時、ぶどう畑や森の小道を祈りながら散歩して大自然に心身とも

に癒されました。また、あり得ないような、とても多額の融資をしてくれる人があらわれました。心から神さまに感謝の礼拝を捧げました。

「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。――【主】の御告げ――それはわがわがではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ(エレミヤ29:11)」

久世さんはクリスチャンになって心が変わりました。家族や会社の人に対して厳しかったりイライラしたことを悔い改めるようになりました。ですから、これからはみんなが生き生きと気持ちよく仕事が出来るとな会社の社長を目指して頑張るようにしました。「あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える(エゼキエル36:26)」

「そういうわけですか、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてさげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です(ローマ12:1)」  
「私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい(6)」「勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれをしなさい(8)」

神さまは1人1人に何か優れた能力を授けてくださっています。管理者としての能力が与えられ、人々の仕事を管理する立場にあるならその責任を誠実に果たすのです。久世さん夫妻は家や会社の一室で礼拝をするようになりました。友だちや会社の人も一緒に礼拝を捧げるようになりました。会社の教会の名前を「サンクゼールチャペル」と名付けました。久世さんは神さまを中心に仕事をしたいと会社の人に言いました。会社の人は久世さん夫妻を「おかしくなっちゃったのかな」と思いましたが、夫妻は諦めないで仕事場で礼拝を捧げ続けています。

「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます(マタイ6:33)」

ある日久世さんは、奥さんやチャペルの人から「教会を建てて欲しい」と言われました。久世さんは最初戸惑いましたが、このビジョンが神さまからのものであると思うようになり、レストランの隣で誰からもよく見える丘の上に教会を建てました。「あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません(マタイ5:14)」にある通りです。お金がなかったのでみんなで協力して建てました。多くの人たちが献金もしてくれました。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます(使徒の働き16:31)」

父のことを嫌っていた子どもたちも、今では良い親と一緒に働いています。家族も増えて、みんなで神さまを礼拝しています。久世さん夫妻は、何かある時すべての時において、関係のあるすべての人と手を繋いで一緒にお祈りをします。

奥さんは会社を大きくしようと思っていたわけではなく、ただ家族みんなで暖かい家庭を築きたいという最初の原点の思いだけでした。家族が信仰を持って礼拝を捧げられるようになることが夢でした。それが叶いました。これからの夢…ミッションは、長い間仕事で一緒に過ごす会社の人々の救いだと考えています。これからは次の夢に向かって進んでいきます。

## まとめ

「そればかりではなく、患難さえも喜んでいきます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです(ローマ5:3-5)」  
久世さんの好きな御言葉です。サンクゼールの久世さんは、患難の中で神さまを知りました。それまでは、自分の力で事を成してきたが、人の力ではどうにもならない事を通して神さまを知ったそうです。証で何度も患難があったと言われていました。そんな中であっても途中で諦めることなく、神さまを見つめ続けて、患難を次のステップへの希望へと変えていきました。私たちも久世さんご夫妻のように神さまを見つめ続けて、患難を希望の素と考えて、途中で諦めることなく歩みたいですね♪

(要約者:行司 佳世)

(2月21日)